

# 19年度研究助成や 学術賞など決定

## 矢崎科学技術振興財団

矢崎科学技術振興財団

財団（細川興一理事長）はこのほど、2019年度の「研究助成金」受領者14人、「国際交流援助」受領者13人、「矢崎学術賞」受賞者2人を決定した。

研究助成事業は1983年から科学技術の発展を目的として行っており、19年度も独創的で成果が科学技術の進歩に大きく貢献すると考えられる研究を対象に選考が行われた。「新材料」「エネルギー」「情報」の各分野

を対象領域に「一般研究助成（助成金200万円）」「原則35歳以下の若手研究者を対象とした「奨励研究助成（100万円）」、財団が特定したテーマにふさわしい研究を対象とする「特定研究助成（1千万円）」の3つの助成制度のほか、国際的な学会で論文や共同研究発表をする際の渡航費を支援する国際交流援助、また、過去に財団から研究助成を受けた

研究者の中から、優れた業績を上げた研究者に与える「矢崎学術賞」がある。一般研究助成には79件の応募から、鹿児島大学工学部理工学域工学系・小野智司准教授の「異常検知や変化点検知における教師信号付き学習データの合成方式の提案」はじめ7件が決定。奨励研究助成は44件の応募から、兵庫県立大学大学院工学研究科・佐藤孝憲助

教の「光演算回路のためのシリコンリソング光共振器を用いた集積型可変フエーズシフトおよびパワートレイバイタの開発」はじめ7件、特定研究助成は応募10件で該当なし、国際交流援助は20件の応募から13件が決定した。矢崎学術賞は功績賞に東北大学金属材料研究所の水口将輝准教授、奨励賞に京都大学大学院工学研究科の坂本良太准教授に決定した。